

# 桂 ジ エ ネ

SDGs  
関連テーマ

3「すべての人に  
健康と福祉を」

参加費無料  
要事前申込

11「住み続けられる  
まちづくりを」

*katsuraga  
Gender Network*

2022.9.21[水]13:30~17:15

申込締切 2022.9.20[火] ~17:00

お申込みは下記イベントページより  
お願いいたします

<https://www.rac.t.kyoto-u.ac.jp/ja/news/events/ind-day2022katsuragene>



## 会場

京都大学 大学院工学研究科 イノベーションプラザ1F(定員先着30名)  
オンライン配信(ZOOMウェビナー)同時開催

※会場では新型コロナウイルス予防対策へのご協力をお願いいたします。  
※新型コロナ感染状況によってはオンラインのみの開催となる可能性があります。

## 主催

京都大学 学術研究支援室、京都大学 大学院工学研究科

## 共催

関西イノベーションイニシアティブ(KSII)、  
京都大学 産官学連携本部、(公財)京都高度技術研究所

## 後援

(公財)京都産業21、(独)中小企業基盤整備機構 近畿本部

## お問合せ

桂ジェネ事務局(京大オリジナル株式会社)

E-mail:kensyu@kyodai-original.co.jp

※京都大学 学術研究支援室(KURA)桂地区担当より  
一部委託を受け本イベントの受付業務を代行しております。

13:00 — 会場受付開始

13:30 — オープニング

13:40 — 基調講演 ● 渡辺 美代子

(科学技術振興機構 シニアフェロー)

14:00 — 研究発表

- 吉光 奈奈(京都大学 大学院工学研究科 助教)
- 片岡 奈々美(積水ハウス株式会社 総合住宅研究所)
- 樋口 ゆり子(京都大学 大学院薬学研究科 准教授)
- 寺本 華奈江

(株式会社島津製作所 分析計測事業部 マネージャー)

15:20 — 休憩

15:30 — オープンディスカッション

16:15 — クロージング

16:25 — 展示での交流(会場のみ17:15迄)

ネットワークイベント

京都大学 女性研究者産学連携

*KURA*  
京都大学 学術研究支援室



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

## 発表者概要

katyura  
Gender Network

### 基調講演



#### すべての人のためのジェンダー・イノベーション 2050年に向けた日本の工学の方向性

渡辺 美代子 (科学技術振興機構 シニアフェロー)

日本の経済と科学技術が低迷し始めて久しく、同時に「ジェンダー＝女性」という誤解が広まりつつあります。あらゆる人の性別を重要な要因として研究開発を進める、すべての人のためのジェンダー・イノベーションが今、注目されています。その推進の結果、未来に向けてさまざまな物事を新しい観点で科学的に追求できるようになります。そこでは工学の果たす役割は大きく、その期待を込めてこれからの進むべき工学の方向性についてお話しします。

### 研究発表



#### 実験室から探る地震発生のプロセス

吉光 奈奈 (京都大学 大学院工学研究科 助教)

地震は我々にとって身近な自然現象ではありますが、地下深くの断層近くで観測することは難しく、発生メカニズムに関してまだわかっていないことが沢山あります。そのため、我々は実験室で地震を模擬した様々な実験をおこない、得られた知見を地震発生過程の理解に活かそうとしてきました。本発表では岩石の圧縮破壊実験を通して、断層の生成過程を推定した研究についてご紹介いたします。



#### 安全安心な住宅の構造技術と生活提案

片岡 奈々美 (積水ハウス株式会社 総合住宅研究所)

近年、長時間長周期地震動や2016年熊本地震などの繰り返し発生する地震動に対する耐震性能が求められています。繰り返し起こる地震に対する構造技術として、在来木造住宅向けに新しい構造材料の研究開発及び導入を行いました。また、災害が生じた後も住宅で暮らしを続けるためには、日頃からの「備え」も欠かせません。住まい手の暮らし方に合った備えについても研究しています。安全安心な住宅の研究開発についてご紹介いたします。



#### 治療細胞を治療標的部位へ届ける

樋口 ゆり子 (京都大学 大学院薬学研究科 准教授)

間葉系幹細胞をはじめ細胞が治療薬として使用されるようになってきました。しかし、投与された治療細胞のうち、治療標的部位へ到達する細胞は多くありません。従来の医薬品と同様に、治療細胞を治療標的部位に集積させる工夫が必要だと考えます。私たちは、特定の細胞に接着する分子を細胞膜に修飾する方法を開発しました。本講演では、細胞膜修飾による治療細胞の特定組織への送達に加え、細胞の固定配置に関する研究もご紹介いたします。



#### 質量分析による微生物分析法の開発

寺本 華奈江 (株式会社島津製作所 分析計測事業部 マネージャー)

環境、食品、動物の表面や腸内には、多種多様な微生物が存在しています。これらを迅速簡便に正しく分析する手法の開発は、常に求められています。最近では、臨床微生物検査や食品微生物検査に、マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法(MALDI-MS)が利用され始めています。私たちは同種の微生物を亜種レベル以下で判別する手法の開発を行っています。本分析手法の原理や特徴について、開発の経緯を交えてご紹介いたします。